

最近ほんのちょっとは小学校の先生
らしくなったかもしれない川崎先生。

◇子どもの感性は無限大◇

若竹を切って入れ物にして、それに花を生けたものを登校してきた3年の女子がくれた。これがまたきれいと言うか、この感性がすごいと言うか、登校時にこういうことを考える場があることと、豊かな自然を受けいれる清らかな心があるということ、その両方に感心する。

今朝は、ずっと近づいてきて敬礼するある男の子。何かしら彼の心の中に、敬礼が良いイメージとして残っていたのだろう。お父さんの真似だろうか？テレビのドラマだろうか？いずれにしても、それを自然に表現できる素直な心が素晴らしい。

「校長先生、手の中に四葉のクローバーがいくつ入っていると思いますか？」と聞いてくる女の子。たくさん見つけたうれしさを誰かと分かち合いたいのだろう。“三つかな？”と言うと、広げた手の中には溢れんばかりの四葉が。うわーあ、すごい！！という驚きに、とっても満足した笑顔が印象的。

子どもって不思議なようでもその言動には必ず何かの意味がある。大人の世界には決してないような、小さいけれどそれでいて大切な意味がある。その一つ一つに触れるたびに、ずーっと忘れていたものが思い出されるような気がする。

決して“大人がダメとか子どもがいい”というような比較論ではなくて、子どもってこんなに様々なことを感じながら生きていて、それを経るから大人って広く深くなるんだと妙に納得する自分がある。うんうん。

◇児童総会 5/8◇

児童会が作った原案に、下級生が修正意見や部分修正を出せるという事は、上級生にそれを受け入れてもらえる信頼感があるからに他ならない。上級生も、そういう下級生の意見をしっかりと受け止めて、真剣に議論する。この雰囲気こそが西小学校の上下の関係性の良さを表している。しっかりと二人の議長の「質問、意見ありますか？」の問いかけに、意見を持った児童が列を作る。自分の考えを持つこと、そしてそれを人前で発表することが自然にできる。出された意見に本部も堂々とした態度で答える。二人の書記も平然と意見を黒板に書き記していく。まるで当たり前のような光景だが、とてもレベルの高い総会が運営されている。それだけではない、総会終了後の後片付けでも自ら仕事を見つけてテキパキとこなす6年生。良いものを見せてもらった。心が満杯になった。

◇先生方の研究会 5/9◇

中巨摩のすべての先生方が楡形体育館に集まって研究会が行われた。この開会式の前に、今年新採用の先生方がステージ上に上がり自己紹介。もちろん市川tと川口tも。西小の先生方は、二人の家族のために前日練習までして応援頑張ったもんね。人数は少ないけど、その分チームワークはどこにも負けない\(^o^)/それにしても、市川tの津軽弁での自己紹介は何言ってるんだかさっぱりわからなかった(^_^)